

航空事故調査報告書
全日本空輸株式会社所属
ボーイング式747-400型 J A 8 9 5 7
紀伊水道上空
平成5年3月8日

平成5年5月13日

航空事故調査委員会議決

委員長 竹内和之

委員 吉末幹昌

委員 宮内恒幸

委員 東 昭

委員 東 口 實

1 航空事故調査の経過

1.1 航空事故の概要

全日本空輸株式会社所属ボーイング式747-400型JA8957は、平成5年3月8日、同社定期104便として那覇空港から大阪国際空港に向け飛行中、14時28分ごろ和歌山県御坊市の南西約20海里の上空の同機内において、乗客1名が死亡した。

1.2 航空事故調査の概要

1.2.1 事故の通知及び調査組織

航空事故調査委員会は、平成5年3月8日、運輸大臣から事故発生の通報を受け、当該事故の調査を担当する主管調査官を指名した。

1.2.2 調査の実施時期

平成5年3月8日～9日 事実調査

2 認定した事実及び事実を 認定した理由

J A 8 9 5 7 は平成5年3月8日、同社定期104便として乗組員15名及び乗客438名、計453名が搭乗し、大阪国際空港に向けて13時13分に那覇空港を離陸した。

同機はフライトレベル290で飛行した後、高度を徐々に下げて大阪国際空港へ進入中、14時28分ごろ、ストレッチャー（担架）で搭乗していた病人の女性客（81歳）が機内において死亡した。付き添いの医師によれば、死亡した病人は重病者で家族及び本人の希望により飛行機を利用し、沖縄県石垣市から那覇空港及び大阪国際空港を経由して山形県酒田市まで帰る途中であった。飛行中、酸素吸入及び点滴の処置をしていたが、14時28分ごろ機内において死亡したとのことである。

同機は14時51分大阪国際空港に着陸し、一般乗客が降機した15時05分ごろ、付き添いの医師が客室乗務員を通じ、機長に対し搭乗していた病人が機内において死亡したことを報告した。

また、機長によれば同病人の死亡推定時の同機の飛行位置は和歌山県御坊市の南西約20海里の紀伊水道上空を降下中でフライトレベル190付近であり、飛行中、同機には異常がなかったとのことである。

3 原 因

本事故は、ストレッチャーで搭乗していた重病者が死亡したものと認められる。